

報道機関各位

平成 18 年 5 月 2 4 日  
東北大学先進医工学研究機構 ( T U B E R O )  
広報室

T U B E R O ナノメディシン分野樋口タスクチームメンバーが V B を立ち上げ

樋口チームの渡辺朋信助手はナノ光学技術を基盤とする「最適顕微鏡」の開発、商品化に成功。 医学、生物学研究のスピードアップに貢献

表題につき、渡辺朋信 T U B E R O 助手らが、株式会社ジーオングストロームを設立いたしましたのでお知らせいたします。

< 会社設立の経緯と趣旨 >

1. T U B E R O の樋口秀男教授タスクチームは予めよりドラッグデリバリーシステム ( D D S ) のナノレベルでの可視化の研究を進めておりましたが、抗がん剤を結合させた CdSe 量子ドットをマウスの尾部より注射し、これががん細胞に到達する様子を観察することに成功いたしました。
2. 渡辺助手はこの研究の中でナノ光学技術を基盤とする顕微鏡の開発を行っていました。本来生物研究を進めるに当たっては、観察対象に合わせて最適な顕微鏡を構築し用いる必要がありますが、現状はそのような自由度の高くない ( 観察対象に最適でない ) 市販の顕微鏡が用いられており顕微鏡製造業者に最適対応を求めてもその対応が遅く、実験の進行速度を低下させることになっていました。生物研究者の多くは自ら顕微鏡を構築することはできず生物研究の課題のひとつになっていました。
3. 現在の生物研究をリードする重要な技術のひとつは「顕微鏡」であると考えられます。誰にでも簡単にカスタマイズできる顕微鏡が作れば、上記の課題が解決され日本の生物研究が飛躍的にスピードアップされると考えられます。渡辺助手はそのような観点から「最適顕微鏡」の開発に成功し、その研究課程で生まれたノウハウを素早く製品にするフローが作れば、同様の実験を日々行っている生物研究者のニーズに応えることができ大きなビジネスチャンスになると考え起業することを決意した次第です。

< ( 株 ) ゴーオングストロームの戦略と会社概要 >

同社の事業内容は、分子イメージングシステムの開発・設計・販売ということですが、具体的には「最適顕微鏡」の開発・設計・販売を行うことで研究者の現状に沿った製品を提供していくことです。そのための製品コンセプトとして自らの研究を進める中で、分か

りやすく、精度の高い計測系を開発し、そのノウハウをもって製品化を行おうとするものです。同社はひとつの基本特許を元に商品を開発するのではなくその時々の研究ニーズに合わせた最適の製品を作り出していく戦略であり、開発から製品化までのフローを最適化しスピード重視の商品開発を行う方針であり、製造業の強い日本国内で広い製造ネットワークを作ることが必須と考えています。

#### (株)ジーオングストロームの概要

(1) 資本金 900 千円

(2) 役員 代表取締役 渡辺 朋信

2004 年 大阪大学大学院基礎工学研究科生物工学専攻博士後期課程修了。  
同年より TUBERO 樋口タスクチーム助手。博士（理学）  
現在細胞内、及びマウス内における蛍光量子ドットのナノ計測技術の開発に従事。

取締役 武内 雅宣

福岡大学薬学部卒

取締役 及川 博道

宮城大学事業構想学研究科ビジネスプラン領域修士課程 2 年

非常勤研究員 塚崎 克和

大阪大学生命機能研究科ナノ生体科学柳田研究室所属特別派遣学生

以上